

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 情報基礎 — コンピュータの基本操作と情報活用術 —	共著	平成 24 年 3 月	学術図書出版	1 年次必修科目「情報基礎」の教科書。アプリケーションソフトウェア、ネットワーク、UNIX 等のコンピュータの基本的な使い方を解説している。 第 4 章 UNIX の活用法: 4.1 節 予備知識、4.2 節 Linux を使ってみよう、4.3 節 ファイル操作を担当。pp. 160–168。 天木 桂子、井上 祥史、内館 道正、井上 祥史、小野 伴忠、木村 彰男、白旗 学、中西 貴裕、原 道宏、平原 英俊、 <u>平山 貴司</u> 、宮本 裕、三好 扶、武藤 由子、吉田 等明
(学術論文) 1. 論理関数のあるクラスについて最小性を保証する AND-EXOR 論理式の単純化アルゴリズム (査読付)	共著	平成 7 年 4 月	電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol. J78-D-I, No. 4, pp. 409–415	AND-EXOR 論理式単純化アルゴリズムを提案した。本アルゴリズムは、パラメタ k を持ち、 k の値に応じて部分的に解の最小性を保証する。 $k = 0, 1, 2$ について実験した結果、それぞれ $n = 20, 7, 6$ である n 変数関数について現実的な計算時間で単純化が可能であることを確認した。 論文執筆、理論構築、実験を担当。 <u>平山貴司</u> , 西谷泰昭
2. A simplification algorithm of AND-EXOR expressions for multiple-output functions (査読付)	共著	1995 年 8 月 (平成 7 年)	Proc. IFIP WG 10.5 Workshop on Applications of the Reed-Muller Expansion in Circuit Design '95, Tokyo, Japan, pp. 88–93	No. 1 のアルゴリズムを多出力関数に拡張した。ベンチマーク関数について実験し、一部の関数について初めて最小性を保証することができた。 論文執筆、理論構築、実験を担当。 <u>T. Hirayama and Y. Nishitani</u>
3. 対称関数の AND-EXOR 論理式最小化 (査読付)	共著	平成 8 年 4 月	第 9 回 回路とシステム軽井沢ワークショップ論文集, pp. 389–394	No. 4 の速報版。 論文執筆、理論構築、実験を担当。 <u>平山貴司, 西谷泰昭, 清水賢資.</u>
4. Minimization of AND-EXOR expressions for symmetric functions (査読付)	共著	1997 年 3 月 (平成 9 年)	IEICE Trans. Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, Vol. E80-A, No. 3, pp. 246–249	対称関数の AND-EXOR 論理式最小化アルゴリズムを提案した。これにより、初めてすべての 6 変数関数について最小 AND-EXOR 論理式を求め、それらを一覧表にした。 論文執筆、理論構築、実験を担当。 <u>T. Hirayama, Y. Nishitani, and K. Shimizu</u>

(その他)				
1. ○○の招待講演	—	平成 21 年 5 月	日本○○の会講演会	○○の会において、○○に関する最新の動向として、○○を講演した。
2. ○○の報告発表	—	平成 22 年 10 月	日本○○の会報告会	○○の会において、○○に関する最新の成果として、○○を報告した。